



「和氣清麻呂」 紙本着色額装 151×181 cm 長谷川路可 (1897～1967)

『名画に見る国史の歩み』(平成12年・近代出版社)

解説 / 和氣清麻呂 (733～799) は岡山県和氣郡の郡司クラスの出身で、姉広虫を頼り上京し共に阿倍内親王 (後の孝謙・称徳天皇) に仕えた。時に宇佐八幡の神が道鏡を皇位につかしめよと託宣したと云う者があり、女帝は清麻呂を九州に派遣し、真相を確かめた。769年、清麻呂は「無道の人を掃い除け」との神託を上奏した。簾の内側は称徳女帝。道鏡の肖像は極めて珍しい。

昭和8年 (1933) 明仁親王誕生を記念し『国史絵画』の編集出版が企画され、17年に78点が完成したが、展示場は戦時のため建設できず東京都が保管した。17年と29年に少部数出版された。36年 (1961) 絵画群は伊勢神宮に移され東京都は伊勢市に譲渡した。

道鏡 (1772年) とその学問

行基 668~749年

行基と道鏡

称徳朝 764~770年

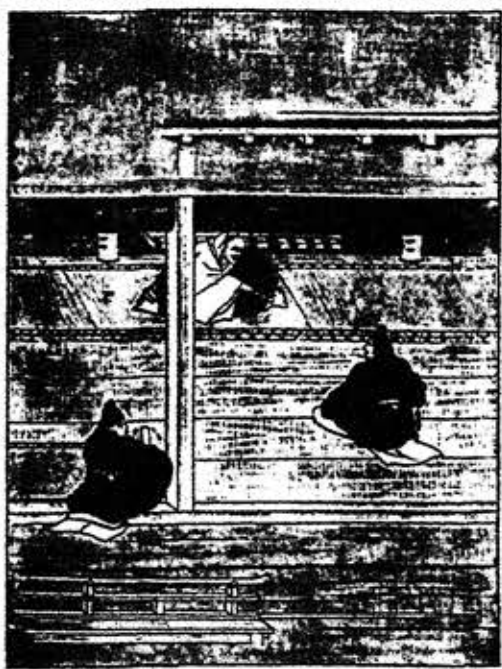
清麻呂が宇佐にいつた

第十 和氣清麻呂
 佛教がだんく盛になると、えらい僧がつぎくに出
 てきた。中でも行基は、諸國を旅行して、いたるところで
 寺を建て、道を開き、橋をかけ、池を掘り、舟つきを定めな
 どして、大いに世の中の利益をおこしたので、人々から
 たいへんうやまはれた。けれども、一方には、道鏡のやう
 な心のあるい僧も出た。

和氣清麻呂 733~789年

神の教を申しあげた

道鏡は、^{第四十}代稱徳天皇の御代、朝廷にお仕へして、政治に
 もあづかり、勢が強かつた。たまく道鏡にへつらつて
 ろたものが、宇佐八幡の御告であるといつはつて、道鏡
 を皇位に即かせる。と、天下はおだやかに治りませう。と、
 天皇に申しあげた。道鏡はこれを聞いて、たいそうよろ
 こんだが、天皇はもう一度神の教を受けてくるやうに
 と、和氣清麻呂を宇佐におやりになつた。
 清麻呂が宇佐に行かうとした時、道鏡は清麻呂に向つ
 て、高い官位を與へるから、自分によいやうにはからつ
 てもらひたい。といつて、利を以て味方にさそひ入れよ
 うとした。けれども、清麻呂は、忠義の志の深い、りつばな
 人であつたから、決して自分の出世のためにその志を
 かへるやうなことはなかつた。宇佐から歸つてくると



和氣清麻呂が神の教を申しあげた
 とも、臣て
 あるもの
 を君とす
 ることは
 ない。無道
 のものは
 早く除け
 といふ神
 の教を、少

清麻呂の忠

しも恐れるところなく、そのまゝきつぱりと申しあげ
 道鏡は大いに怒つて、清麻呂を大隅に流し、しかも、その
 途中で殺させようとした。その時、ちやうどはげしい雷
 雨があつたため、清麻呂は、危いところをやつとまぬか
 れることが出来た。それから、まもなく、^{第四十}代光仁天皇の
 御代になつて、道鏡は下野に追ひやられたが、清麻呂は
 呼びかへされ、^{第五}代桓武天皇の御代まで、朝廷にお仕へ
 申して、ますます忠義をつくし、重い役に用ひられた。今
 は、京都の護国神社にまつられてゐる。わが國の臣民は
 皆つねに清麻呂のやうな心がけを願つてはゐる。

『尋常小学国史』 1935年 s10

孝謙天皇 (在位 749~58・718~
 770) が上皇の後重祚した。

へつらう人 太宰府の主神習宜阿蘇麻呂

760年従一位太政大臣藤原仲麻呂が権力
 を握っていたが、道鏡を巡り孝謙上皇と
 淳仁天皇 (在位 758~64) が不和に
 なつた。

仲麻呂は764、9反乱を起こしたが、
 上皇方の吉備真備らの軍指導により敗北
 し、琵琶湖西岸で捕殺された。
 淳仁天皇は廃され淡路島に配流され憤死。

道鏡 俗姓弓削連、6世紀の物部連の一族
 河内国若江郡 (八尾市・東大阪市) の人
 生年不明、747年東大寺写経所の僧と
 して見えるのが初見。

孝謙上皇が病悩した761年、看病し功
 績があり、上皇の寵愛を受けた。761
 年時、上皇は44歳、道鏡は50歳代か。
 765、10太政大臣・禪師になる
 766、10法皇になる

772、4、7道鏡死す 『続日本紀』
 「梵文にわたり、禪行をもつて聞えたり
 「内道場に入り列して禪師となる」
 「衣服飲食もはら供御に擬す
 「政の巨細に決をとらざる」となし」

下野に追い 下野国 (栃木県) 薬師寺の別当
 に左遷された

道鏡は山林修行者『七大寺年表』（永万元年〔一一六五〕惠珍の書写、持統朝〜延暦二十

天平宝字七年（七六三） 癸卯

少僧頭道鏡へ九月四日任ず。法相宗、東大寺、或いは西大寺。河内国の人、弓削氏。

天智天皇の孫志基親王の第六子なり。義淵僧正の弟子。初め葛木山に籠り、如意輪葛城山の三子法を修め、苦行極まりなし。高野天皇、これを聞こし召し、近江保良宮に御薬のこ如意輪法とあり。よりに道鏡を召し、宿曜の秘法を修めらる。ことに験ありて平復せらる。よりに少僧頭に任ず。〔☆宿曜インド由来の天又曆学・宿曜經に基づき、平生の運行と人固り〕

〔運命が同調する〕と云う

禪行・禪師とはなにか『續日本紀』孝謙天皇・天平勝宝八年（七五六）五月

二十三日、禪師法榮は立性清潔にして、持戒第一なり。はなはだ看病をよくす。これによ禪師法榮の場へりて、辺地より請いて、医薬に侍らしむ。大上天皇（聖武）、験を得る事数多く、信重人に過ぎたり。他の医を用いず……

二十四日、勅すらく、先帝陛下のおんために屈請せる看病の禪師一百二十六人をば、よる看病禪師126人しく当戸の課役を免ずべし。……□

「梵文にわたる」とはなにか 梵語・梵文は古代インドの文章語・サンスクリット語

玄奘（六二九〜四五年インド滞在）・義浄（六七〜九五年インド滞在）らにより本格的

理解が始る

来日した南インド僧・菩提邊那（七〇四〜六〇・七三六年来日）による梵語授業

サンスクリット語の音を写した語句 旦那・伽藍・舍利・夜叉など

大日如来咒

【慣用音】 ナウマク・サンマンダ・ボダナン、アピラウンケン。

【梵文】 Namah samanta-buddhānam, a vi ra hūm kham.

【和訳】 あまねき諸仏に礼したてまつる。ア・ヴィ・ラ・フーン・カン。

薬師如来咒

【慣用音】 オン・コロコロ・センダリ・マトウギ・ソワカ。

【梵文】 Om huru huru candali mātaṅgi svāhā.

【和訳】 帰命したてまつる。速疾に拱受したまえ、チャンドーリよ、マータンギよ、あなかしこ。

孔雀の呪法 『正倉院文書』16巻四一四頁

合 収納紙八百九十九張：細布八端二丈八尺： 錢六百二十文へ毛筆十管・墨四廷：

孔雀經を中

とす全四十卷

右は、弓削禪師の去る六月三十日の宣により、写し奉るべき大金色孔雀王呪經一卷・仏説大金色孔雀王呪經一卷・孔雀王呪經二卷・大孔雀王呪經三卷・十一面觀世音神呪經一卷・十一面神呪心經三十卷・陀羅尼集經第四第九卷、ならびに四十卷經の經師らの淨衣、ならびに紙筆墨の直、檢納すること件のごとし。

（天平宝字）七年（七六三）七月二日 上馬養

*要点：東大寺写經所の報告書。道鏡禪師の六月三十日の命により、大金色孔雀王呪經一卷を含む四十卷の經典を写すに必要な紙筆墨を準備した、という。

*「大孔雀王呪經」は義浄が神龍元年（七〇五）に翻訳した。内容は、釋尊が毒蛇に噛まれ苦しむ沙底のために、一切の不幸を除く法・降雨を止める法・などの孔雀王の呪を説く。呪を持する者は守護され、百歳の寿命を得るという天竜・夜叉・四天王の呪を説く。終わりに、壇場の設営法・画像・護摩法などを説く。

雜密教七〇年代 師資相承をアケ

純密教八〇年代(空海以後) 大日如来・金剛菩薩・達摩楞多・善無畏・玄超・息果・空海

天子御子... 天智二年丙午七月廿六日

道鏡

(天三)

天平神護二年丙午七月廿六日

道鏡禪師 十月廿三日(國元)授法皇... 位。

左大臣 正二位藤原朝臣永手... 正位(元三木)

右大臣 勳二位吉備朝臣真吉備... 正位(元三木)

大納言 從二位藤原朝臣永手... 正位(元三木)

正三位白壁王... 正位(元三木)

藤原朝臣真橘... 正位(元三木)

吉備朝臣真吉備... 正位(元三木)

中納言 正三位吉備朝臣真吉備... 正位(元三木)

參議 從三位藤原朝臣清河... 正位(元三木)

從三位山村王... 正位(元三木)

從三位石川朝臣豐成... 正位(元三木)

從三位中臣朝臣清廣... 正位(元三木)

正四位下藤原朝臣繩麿... 正位(元三木)

正四位下石上朝臣宅嗣... 正位(元三木)

從四位上藤原朝臣田廣... 正位(元三木)

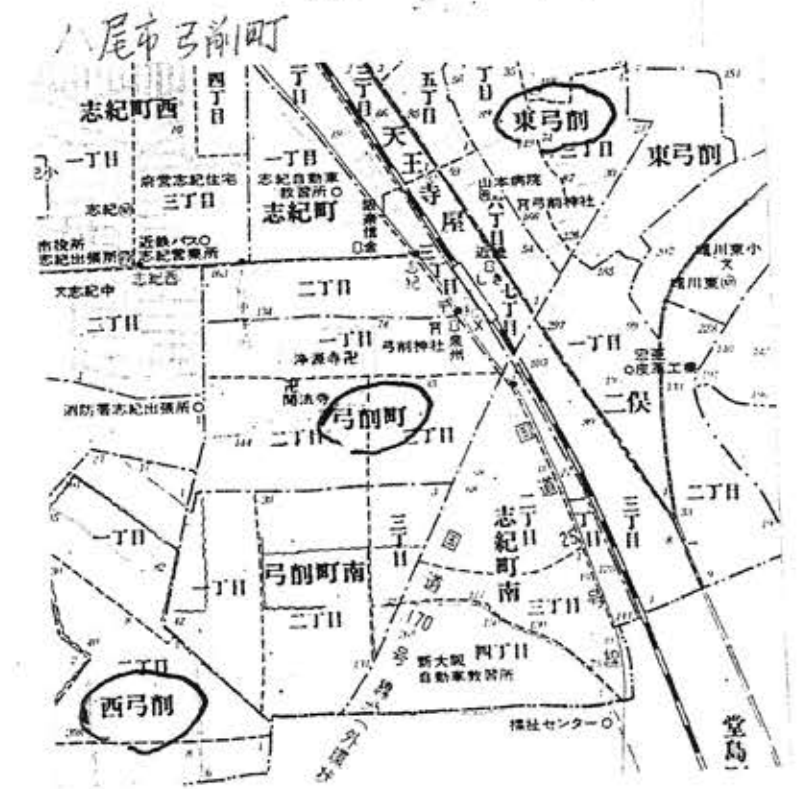
從四位下藤原朝臣繼繩... 正位(元三木)

法參議 正四位上基貞禪師... 正位(元三木)

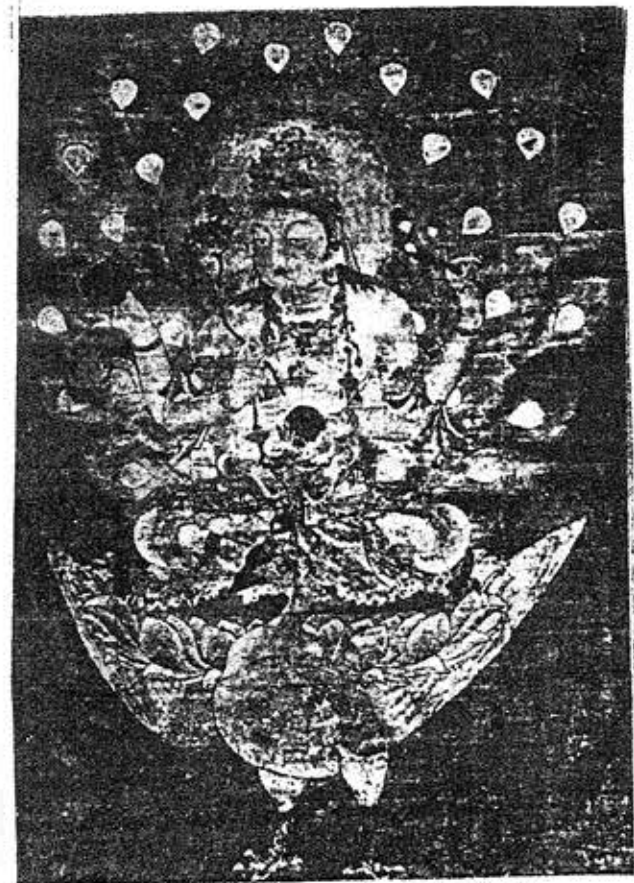
法參議 正四位上基貞禪師... 正位(元三木)

法參議 正四位上基貞禪師... 正位(元三木)

3



公卿補任... 公卿は本来三位以上の者四位の参議も加わり... 明治になるまで毎年書きつがれた



孔雀明王 法隆寺